

## 算数

## ➡ 1年生 | 「3つの かずの けいさん」

## 「数がふえる言葉」「数がへる言葉」を集めよう

## 1. 単元のねらい

この単元では、絵や文をもとにして3つの数量の関係をとらえ、① $a+b+c$ 、② $a-b-c$ 、③ $a-b+c$ 、④ $a+b-c$ の計算も、これまでに学習した2つの数量の加法・減法の考え方を使って求められるということを理解し、計算できるようにすることをねらいとしている。

## 2. 問題場面をとらえる力

「たしざん(1)」「ひきざん(1)」の単元で学習する、「あわせて いくつ」「ふえると いくつ」「のこりは いくつ」「ちがいは いくつ」のどれにおいても、絵や文を手がかりにして問題場面をとらえ、その関係を数図ブロックで表し、それを操作しながら、合併や増加、求残や求差の意味を理解し、たし算やひき算の式に表して計算することを学習した。

この方法が身につけている子どもたちにとっては、数量が3つになっても、今までの学習を活用して解くことができると思う。しかし、問題にある2つの数量を見て、たし算の学習をしている時には「たし算」、ひき算の学習をしている時には「ひき算」の式を立てて計算してきた子どもたちにとっては、問題場面に沿って3つの数量の関係をとらえ、考えていくことができにくい状況が予想される。

## 3. 数量の増加・減少を表す言葉集め

問題場面をとらえるということは、自分の生活と結びつけて数量の変化を具体的にイメージ化するということである。しかし、1年生が、日常生活において数量の増加や減少を意識することは少ないだろう。そこで、「数がふえる言葉集め」「数がへる言葉集め」をすることで、問題場面や日常生活において数量の増加や減少を意識する力を育てるようにする。

## ● 数がふえる言葉 ●

あわせて、全部で、来ると、ふえると、もらうと、みんなで、乗ると、買うと など

## ● 数がへる言葉 ●

帰ると、食べると、飛んでいくと、使うと、あげると、おりると、とると、出ると など

「たしざん(1)」や「ひきざん(1)」の学習をしながら見つけた言葉を教室に掲示する。また、生活の中で子どもたちが見つけた言葉は、数図ブロックを操作して数量の変化を確かめてから掲示する。このようにして、問題場面における数量の増加や減少を生活と結びつけてとらえる力を育てていく。



## 4. 連続している場面を1つの式に表す

絵や文で示されている3つの場面を連続した1つの話としてとらえ、話の展開に沿って数図ブロックを操作して数量の関係を表し、「連続している場面を1つの式に表す」ということを理解させる。ここで大切にしたいことは、「話の展開に沿って」ということである。

①増えて、増える場面、②減って、減る場面、③減って、増える場面、④増えて、減る場面というように場面をとらえて式に表し、前から順に計算する。このことをしっかりと理解できていれば、③の $a-b+c$ の計算で、 $b+c$ を先に計算することはなくなると考えられる。

## 5. 終わりに

問題場面をとらえる力を育てるための1つの方法として「言葉集め」を考えた。集めた言葉は、自分の考えを説明したり、問題作りをしたりするときにも使い、数学的な考え方を育てたり、知識理解の定着を図ったりするための手立てとして活用していきたい。